



天雲の外（よそ）に雁が音 聞きしより はだれ霜降り 寒しこの夜は

巻10-2132 作者未詳

天雲の遙か彼方に雁の鳴き声を聞いたその日より、薄霜が置いて肌寒い、このごろの夜は。

いじめ・不登校の取組を進めています！

赤や黄色など、私たちの目を楽しませていた紅葉の季節も終わり、木枯らしに落ち葉が舞う季節へと変わってきました。月日の経つのは早いもので、2024年（令和6年）も残すところ、あと3週間となりました。各家庭でも師走を迎え、慌ただしい日々を送っておられることと思います。

学校・園では、2学期終業式の23日まで2学期における学習や保育のまとめ、期末懇談などが行われています。特に中学校3年生は、期末テストの結果を受けての進路決定に向けた大事な三者懇談が行われ、本人が志望する、公立や私立の高校名が具体的に表される時期でもあります。



ところで、10月末に、新聞等マスコミ報道で令和5年度の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」が発表されました。調査項目は、暴力行為・いじめ・不登校・自殺など8項目を対象にしたものです。

暴力行為については、小・中・高等学校におけるの発生件数が108,987件（前年度95,426件）であり、前年度から13,561件（14.2%）増加し、児童生徒1,000人当たりの発生件数は8.7件（前年度7.5件）で過去最多となりました。

いじめについては、小・中・高等学校及び特別支援学校におけるの認知件数は732,568件（前年度681,948件）であり、前年度から50,620件（7.4%）増加し、児童生徒1,000人当たりの認知件数は57.9件（前年度53.3件）とこれも過去最多となりました。増加の背景としては、いじめの定義やいじめの積極的な認知に対する理解が広がったことやアンケート、教育相談の充実などによる児童生徒に対する見取りの精緻化、SNS等のネット上のいじめの積極的な認知が進んだことなどが考えられるようです。

小中学校における不登校児童生徒数は346,482人（前年度299,048人）で、前年度から47,434人（15.9%）増加し、11年連続で増加、過去最多となったものの、増加率は前年度と比較して若干低くなった（R4 22.1% → R5



15.9%）ようです。増加の背景としては、コロナ禍の影響による登校意欲の低下や特別な配慮を必要とする児童生徒に対する早期からの適切な指導や必要な支援に課題があったことなどが考えられるようです。

特に、いじめ、不登校の状況を広陵町に当てはめると、全国と同様にいじめの件数や不登校児童生徒数が増加しています。いじめについては、令和4年度が98件、令和5年度が極端に少なく28件、そして令和6年度は、いじめの認知を「いじめ見逃しゼロ」というスローガンの下、より積極的に行ったことが

影響して、現時点で111件とかなり増加しています。いじめの定義は、下に示すように

「いじめ」とは、児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等該当児童生徒と一定の人間関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。

と規定されています。今回は、この定義に則り、「いじめ見逃しゼロ」を意識しつつ、いじめを受けた児童生徒の思いを優先することで認知数が増えたのではないかと思います。

学校で認知したいじめについては、先生方が子どもたちに寄り添いながら丁寧に聞き取りし、本人や周りの状況、保護者への説明も十分に行う中で、重大案件につながらないかの判断をしつつ、未然防止に積極的に取り組んでもらっています。

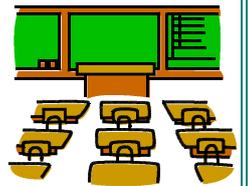
町教育委員会では、対策の一つとして、令和元年度より小4、小5、中2の児童生徒に対し、いじめ防止標語を募集し、最優秀・優秀作品の表彰と最優秀作品の掲示及びクリアファイルを作成して、参加賞として配布し、いじめは絶対許してはならないという取組を進めています。また、小5、中1を対象とした「いじめ予防出前授業」を弁護士にさせていただいており、これらの取組が一定の効果を上げているように思います。

不登校においては、令和4年度が101人、令和5年度が124人とかなり増えています。不登校の定義は、下に示すように

30日以上、何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状況にある者（ただし、「病気」や「経済的理由」による者を除く。）

と規定されています。

不登校は、様々な要因が重なり合って起こることから、特效薬はないと言われていますが、不登校となった児童生徒の居場所としての校内教育支援センター（校内の適応指導教室）や校外の施設（フリースクール的な民間施設等）などの設置と直接家庭に出向いての支援（訪問支援）などで柔軟に対応することが解消につながると言われています。



町教育委員会では、不登校児童生徒の支援として、従前から大和高田市の語らい教室（教育支援ルーム）との連携による支援とともに、今年度より新たな取組として不登校児童生徒に対する訪問支援事業を開始しました。この取組は、学校との連携をさらに強化しつつ、保護者との面談等を経て、民間福祉事業者を活用した専門職によるアウトリーチとして、家庭への訪問支援に取り組み、一人でも多くの子どもたちが学校へ登校できるようにするものです。また、不登校生徒が多い中学校には、別室登校ができる部屋を用意し、教室には入れないけれど学校に来ることができ生徒に学習をはじめ、悩みも相談できる居場所を作っています。

将来的には、町内にフリースクール的な官民連携の施設を開設し、少しでも不登校児童生徒の解消に向けた取組をできればと考えています。

教育委員会の取組

第3回スポーツフェスティバルを開催！

第3回広陵町スポーツフェスティバルが、11月17日(日)に開催されました。前日に少し雨が降り、雨に遭うかもと心配だったのですが、朝から太陽も顔を出し、気温も20℃前後と身体を動かすには快適なスポーツ日和となりました。

8時30分から中央体育館で開始式を行うとともに、9時から中央体育館(綱引き、リズムジャンプ、ディスクゲッター、輪投げ、バスケットボールフリースロー)、格技場(モルック、ビーンボウリング)、広陵中学校運動場(体力測定、靴とばし、キックターゲット、ティーボール、ストラックアウト)・体育館(バブルサッカー)で13種目の競技を開始しました。



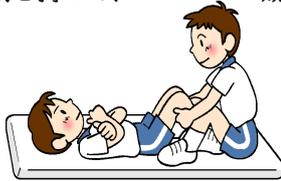
60名を超える方々にフェスティバルに携わっていただきました。

今回は、参加された方々により楽しく身体を動かしてもらおうと新たな種目として、ディスクゲッター(フライングディスクを投げて9枚の的を射貫くゲーム)、ビーンボウリング(9本の小さなピンを横並びに並べ、ピンにボールを当てるゲーム)、ティーボール(ティースタンドに置いた柔らかいソフトボール大のボールをプラスチックのバットで打つゲーム)、バブルサッカー(プレイヤーが上半身と頭を覆うビニール製のバブルボールを身に付けて楽しむサッカーゲーム)を導入しました。

この日は、絶好のスポーツ日和だったこともあり、競技開始から子ども連れのご家族をはじめ、老若男女すべての年代の方々が元気いっぱいそれぞれのスポーツを思いっ

り楽しんでいました。また、競技を行う上で励みとなる、受付時に手渡されたスタンプラリー受付用紙を持って、一つ一つの競技を終えるごとにスタンプを押してもらい、賞品の獲得にも精を出しておられました。私も9時過ぎから参加された方々に混じって体力測定をはじめ、13種目の競技すべてを体験し、年甲斐もなく負けず嫌いの心に火が付いて、一つ一つの競技に最高記録を出そうと持てる力を精一杯発揮するとともに快い汗を流すことができました。

かつて広陵町、区・自治会、スポーツ協会等で大々的に実施されていた町民体育祭から変わって3回目となる今回のスポーツフェスティバルは、参加者もこれまでで最も多く、638名の方々に参加していただきました。特に子育て世代の人たちとその子どもさんたちが400人以上参加してもらったことは、今後のフェスティバルを企画運営する上で大きな励みとなりました。



学校の様子

真美一小6年生、『アスリート』で指導を受ける

真美ヶ丘第一小学校の6年生が、11月29日(金)の5・6限目に元オリンピック体操選手の大島杏子さんにマット運動を教えていただきました。スポーツ庁主管、日本テレビ運営による学校訪問事業であるアスリート全国学校派遣プロジェクト『アスリート』に真美ヶ丘第一小学校が申し込み、数多い申し込みの中から抽選の結果、実現したものです。オリンピックメダリストや元プロ選手など、スポーツの世界で活躍をしたアスリート・パラアスリートを体育の先生として全国の学校に派遣されている取組です。



大島さんは、アテネオリンピック(2004年)、北京オリンピック(2008年)の体操競技日本代表に選ばれ、日本女子最多記録となる通算8度の世界選手権にも出場したトップアスリートです。

私は、5限目の終わり頃、体育館を訪れました。その時は、大島さんの講話の終盤で、「このあと、マット運動に入るけど、『できない・無理』は言わないこと。無理だからやらない、ではなくてやってみることが大切。やってみれば意外とできたりするよ。」と子どもたちに、諦めないこと、挑戦することの大切さを熱く語っておられました。校長先生に聞くと、講話のはじめに、大島さんは、まずは自己紹介され、スライドを見せながら、「体操とは?」「体操競技とは?」、そして運動することの大切さを自身の体験談を通して語っておられたようでした。



後半のマット運動では、はじめに準備運動として足の屈伸や伸脚、腕の回旋等のあと開脚しての前屈などのストレッチ運動をきれいな見本を見せながら、身体の固い子どもたちに「わりわりと言わない」と楽しい語りで励ましておられました。

その後は、マットをみんなで準備し、前転、後転、伸膝後転、開脚後転、開脚前転をうまくやるコツを話すとともに、それぞれのグループのマットを巡回しながら懇切丁寧に教えておられました。最後に、大島さんはみんなの前でバク転宙返りを披露され、体操競技の素晴らしさ・美しさを伝えていただきました。



広陵中1年生に防煙教育！

12月10日(火)の5・6限目に広陵中学校の1年生が体育館で畿央大学の松本泉美先生から「たばこは、誘われても断ろう」というタイトルで防煙教育の出前授業を受けました。

この取組は、広陵町が進めている受動喫煙による健康への影響から町民を守るための「広陵町たばこ禁煙(受動喫煙)から健康を守る思いやり条例」とたばこの喫煙による様々な害を中学生に知ってもらうために開催されました。

ニコチンには依存性があることや新型たばこも紙巻きたばこと同じように発がん性物質が多く含まれていること、そして子どもたちが誘われても最初の一歩に手を出さないこと、子どもたちの健やかな成長発達と健康保持には受動喫煙防止が必須であることを学習していました。

